

### 1. 授業科目と単位：

学習メディア環境デザイン論 (○)講義 ( )演習 ( )実習 2 単位

### 2. 履修対象者：

(○)D1, (○) D2, (○)D3, (○)D4, ( )D5: (○)文化科学研究科, (○)総研大の全研究科, その他 (総研大以外からの聴講参加も歓迎する)

### 3. 授業担当教員：加藤浩

#### 担当教員との連絡 (e-mail、電話、FAX、研究室)：

質問は e-mail か e-mail で調整した時間の面談を歓迎する。(hkato@nime.ac.jp、電話 043-298-3270、FAX 043-298-3270、メディア教育開発センター 研究棟 710 号室)

### 4. 授業実施期日時間：

前期 毎週金曜日 10:30~12:30 (2 時間×11 回)

### 5. 授業実施場所：

メディア教育開発センター研究棟 8 階、学生室セミナールーム

### 6. 履修条件、受講方法：

履修条件は特になし。遠隔地において、出席が困難な学生には、テレビ会議システムを利用した参加も認める。

### 7. 授業内容の概要：

教材作成者の学習観が自覚されることは少ないが、教材のデザインに少なからぬ影響を与える。本科目では、実際に e ラーニング教材を設計、開発する専門家として基本的な学習理論とコンピュータを用いた学習環境デザインの関係を説明できるようになることを目指す。

まず行動主義、表象主義、構成主義、状況論などの学習理論の変遷を追って、それらがどのような教育システムを生み出してきたかを具体的に見ていく。そして学習環境のデザインの方法論を深め、併せてその評価方法について特に質的分析を中心に解説する。

### 8. 授業の達成目標：

1. 主要な学習理論とその歴史的背景について理解すること。
2. 主要なコンピュータ利用教材のタイプとその背後にある学習理論との関係を理解すること。
3. 学習環境のデザインと評価の方法論について理解すること。

### 9. 授業計画：

最後の授業（第 11 回）は、学生が最終課題として与えられたテーマについて発表し、それに関して討議を行う。

第 1 回 オリエンテーション 「コンピュータと教育」

第 2 回 行動主義とドリル型教材

第 3 回 表象主義とチュートリアル型教材

第 4 回 知的 CAI

第 5 回 構成主義とマイクロワールド型教材

- 第 6～7 回 状況論と協調学習支援
- 第 8 回 学習環境のデザイン論
- 第 9 回 教育評価の諸相
- 第 10 回 質的評価法
- 第 11 回 最終課題プレゼンテーション

**10. 使用参考書、参考文献：**

認知的道具のデザイン, 加藤 浩 有元 典文編, 金子書房, 2001  
実践エスノメソドロジー入門, 山崎敬一編 , 有斐閣, 2004

**11. 単位取得要件と成績評価基準：**

出席およびレポートによって評価を行う。

**12. その他のコメント**

特になし。